

## 南三陸町の自然環境と再生可能エネルギー開発の調和を図るための提案

太陽光や風力、水力、地熱、バイオマスといった再生可能エネルギーは、温室効果ガスを排出しないクリーンなエネルギーとして、その開発と普及が世界的な課題となっています。一方で、大規模集約型の施設の場合、地域の良好な自然環境や生物多様性を損なうことにもなりかねず、開発と保護をめぐるトラブルが各地で続出しており、無秩序な開発を抑制するための条例の制定が、全国の多くの自治体で進められています。

メガソーラーや風力発電といった大規模な再生可能エネルギー発電施設の場合、日照や風況等の面での有利さから、山の稜線部が候補地となることが多いのですが、町境と分水嶺がほぼ一致し、町内の山に降った雨が町内の河川を通じて恵みの海である志津川湾に注ぎ込む南三陸町においては、良好な山の水源環境の維持は、私たちの生活を成り立たせる上で欠かせないものであり、同時にそれは、町のシンボルバードでありながら絶滅が危惧されているイヌワシの生息環境とも重なります。

再生可能エネルギーの重要性は論を待ちませんが、ふるさと南三陸の良好な自然環境を損なうことなく、開発と保護の両立・調和を図るため、南三陸町独自の条例等の制定に向けた検討に入ることを提案したいと思います。

2022年1月26日

南三陸町環境審議会委員 ●●●●